

令和7年度 第3回白井市市民活動推進委員会(全体会)

- 1 開催日時 令和7年6月18日(水) 午後1時30分～午後3時10分
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎1階 会議室101
- 3 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、川村俊男委員、近藤健司委員、
赤間賢二委員、成田秀雄委員、大田茂子委員、富澤賢司委員、
菊池由紀子委員、高城久美子委員、篠原美保委員(名簿順)
渡辺しろい市民まちづくりサポートセンター長(参考人)
- 4 欠席者 木下新治委員
- 5 事務局 今井市民環境経済部長、元田市民活動支援課長、石田主査、
栗原主任保健師、伊東主事
- 6 傍聴者 1名
- 7 議事
 - (1) 令和7年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について[公開]
 - (2) 白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について[公開]
 - (3) 令和6年度白井市市民団体活動支援補助金成果報告会[公開]

8 会議概要

(1) 令和7年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について(資料2、3)

○委員長

それでは、早速ですが議事を進めていこうと思います。

まずは令和7年度の白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局

それでは、議事1について事務局から説明させていただきます。資料2をご覧ください。本日の委員会のスケジュールを示しています。

まず、午後1時40分まで、令和7年度の市民団体活動支援補助金の審査結果について報告いたします。そのあと、45分まで、議事3の令和6年度補助金採択団体による成果報告会の流れについて確認いたします。確認ができましたら、早速、団体による成果報告会へ入ります。発表順は表のとおりです。以上が本日の委員会のスケジュールです。

次に、資料3をご覧ください。こちらは補助金の審査結果を白井市長宛てに提出したものです。審査委員の皆様にはご承知いただいているところですが、今年度の補助金審査の過程、そして結果について報告させていただきます。

次のページをご覧ください。1ページ目の1、補助金応募申請団体についてです。今年度は、活動促進型で2団体、ひだまり食堂と「ほんとうに住みやすい白井」を本当に

する会から応募があり、また、活動発展型では、しろい d e あそ部の 1 団体から申請がありました。次に 2、審査過程についてです。補助金審査委員の皆様は 5 月 13 日と 23 日の 2 回、ご出席いただいて審査を実施いたしました。13 日には団体から提出された申請書類に基づき書類審査を、23 日には団体からのプレゼンテーションと質疑応答を行い、プレゼンテーション終了後、審査基準を基に総合的に審査を実施しました。

2 ページ目をご覧ください。3、審査方法及び手順についてです。審査は、必要性・公益性・実現性・自立性・自発性・事業効果の 6 つの審査項目と審査ポイントに基づいて実施いただき、採点区分に基づき各項目の点数を付けていただきました。審査委員に付けていただいた点数を合計、平均して採否の決定をいたしますが、活動促進型は 30 点満点中 15 点以上、活動発展型については 40 点満点中 24 点以上の得点となれば採択の基準を満たしたものとしています。

3 ページ目をご覧ください。4、審査結果についてです。以上の審査過程を経た結果、活動促進型ではひだまり食堂と「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会、どちらも採択となり、活動発展型ではしろい d e あそ部が採択という結果になりました。

4 ページをご覧ください。5、審査結果の詳細についてです。詳細については、4 ページと 5 ページに記載しております。採択団体について初めて聞く方もいらっしゃると思いますので、簡単に団体の概要と審査結果について読み上げさせていただきます。

1 団体目はひだまり食堂です。この団体は子ども食堂事業を本補助金で申請しており、事業の概要としては、西白井コミュニティプラザで月 1 回ランチタイムに子ども食堂を実施する、としています。審査の結果、合計平均点数が 24.3 点となり、採択基準点の 15 点を超えておりますので採択としました。表の下部分には審査コメントとして 3 点ほど記載しておりますが、こちらは審査を踏まえて、審査委員からの団体へのメッセージとして載せているものです。参考にご確認ください。

2 団体目は「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会です。申請事業名はグリーンスローモビリティ運行に向けての実証実験に係る PR、講演会活動として挙げていただいております。グリーンスローモビリティについて初めてお聞きする方もいらっしゃると思うので簡単に説明いたします。グリーンスローモビリティは大体時速 20 キロ以下で走る車で、シートベルトや窓がないのが特徴ですが、例えばゴルフ場を移動するカートのようなものをイメージしていただくとそれに近いと思います。合計平均点数が 18.0 点と、採択基準点の 15 点を上回ったということで採択となりました。審査コメントでは、今回、補助金の方では応募をいただいていないものですが、別で実施する実証実験を今年行うということで、そちらとの相乗効果が発揮できるよう留意して取り組んでいただきたいと団体にお伝えしております。

3 団体目はしろい d e あそ部です。この団体については、令和 5 年度にも本補助金の活動促進型に申請いただき、採択をしております。申請事業名は、前回と同じく、みん

なの居場所づくり事業としており、まちサポの多目的ホールでアナログゲームなどを使った地域の人と交流できるイベントなどを開催し、実現に取り組むとしています。合計平均点数は34.2点と基準点の24点を超えたので、採択となりました。審査コメントとしては、若い世代を中心としたユニークな活動であり、他団体との連携を深めつつ活動をさらに発展されることを期待しますといったことを団体にお伝えしております。以上が団体の審査結果についての報告となります。

事務局からの説明は以上です。

○委員長

ありがとうございました。

補助金の審査に関わった方と関わっていない方がいらっしゃると思います。関わっていただいた方についてはありがとうございました。関わっていない方から何か質問とかコメントがあればお受けできますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

これは、既に市長に答申を出しているものなので、今さらというところはありませんが、もし、何か改善点などあれば、来年度以降に反映できるかと思います。よろしいでしょうか。

とても細かい点ですが、別紙でついている委員名簿が全員分のものとなっています。補助金審査に関わった方は、この中の5、6人ですね。ということなので、この別紙1は後で差し替えといていただけるといいかなと思います。

(2) 白井市市民団体活動支援補助金成果報告会について(資料4)

○委員長

そういたしましたら、次の議事に入っていきたいと思います。

続いて、今日のメインテーマである成果報告会の流れについて、ご説明をお願いします。

○事務局

それでは、議事2について事務局から説明いたします。資料4をご覧ください。この議事については、このあと、議事3で成果報告会を開催するにあたり、進め方について確認いたします。

まず、成果報告会の目的についてです。この報告会は、昨年度に補助をされた事業の実施結果について、審査を行った市民活動推進委員会が活動の成果を確認するための場として設けております。

報告時間については1団体につき10分、質疑時間については5分程度設けております。質疑の際は市民活動推進委員会委員からのご質問にお答えください。報告の順番は表のとおりです。最後に団体の皆様にも意見交換に参加いただき3時10分に終了させていただきます。

なお、グリーンレンジャーの発表と質疑応答が終了したあと、15分の休憩を設けておりますが、こちらについては、4番目に発表する白井市文化センターを未来につなぐ会さんが仕事の都合により、午後2時45分からしか出席できないとのことでしたので、このようなスケジュールとなっています。白井市文化センターを未来につなぐ会さんの発表準備ができ次第、再開いたしますのでご容赦願います。

裏面をご覧ください。各団体発表は（1）事業目的、（2）事業の内容、（3）事業実施中に起きた問題とその対応策、（4）事業成果と今後の課題、（5）これからの展望、これらを踏まえて発表していただきます。なお、委員の皆様には非公開資料ですが、資料5として各団体の審査結果と実績報告書をお配りしております。委員の皆様におかれましては、そちらも併せてご利用いただき、質疑に臨んで頂ければと思います。また、希望のあった団体のみ、皆様に資料を用意しておりますので、あわせてご活用ください。説明は以上です。

○委員長

ありがとうございました。

何か委員の方から、または参加団体の方から御質問ありますか。よろしいでしょうか。それでは、早速ですが、まず、1団体目の桜の会さんからお願いしたいと思います。

（2）令和6年度白井市市民団体活動支援補助金成果報告会（資料5）

○委員長

先ほどもありましたとおり、今日は団体さんの都合で、後ほど、15分の休憩もありますので、時間は多少伸びていただいても大丈夫です。審査の場ではないので、緊張せずにやっていただければと思います。

では、よろしくお願いいたします。

○桜の会

桜の会と申します。よろしくお願いいたします。

私たちは、白井第二小学校区みどりの里づくり協議会への参加をきっかけに、地域での多世代間交流、次世代を担う子供たちの地域活動への参加を増やしたいという思いから、桜の会を発足し、活動してきました。

活動内容としましては、7月に、「ばらっぱまつり」を行いました。こちらは、中学生5、6人ですが、かき氷のお店を出店して販売いたしました。

8月、第二小学校で行われたみどりの里づくり協議会の夏祭りへの出店。こちらはヨーヨーと型抜きをやりましたが、こちらも中学生にヨーヨーを作るところから、あと、お店の店番等をやってもらいました。

12月、冬休み学習会。これは、小学生を対象に、公民センターで場所を借りまして書き初めを行いました。

1月、ばらっぱまんじゅうづくり。こちらは小学校のPTAの方を対象に参加者を募り、ばらっぱまんじゅうを作って、みんなで食べました。

3月、子ども会議。こちら公民センターにて、小・中学生、大体30名ほど集まっていたいて、今後の自分たちがこういうことをやってみたいとか、桜の会でこういうことをやってほしいという意見があったら教えてくださいということで会議を行いました。

事業実施中に起きた問題と、その対応策ということですが、メンバーそれぞれの意見があり、それを統括するのに時間がかかってしまいました。LINE等でいろいろやり取りはしましたが、やっぱり意見が食い違うということがありましたので、直接会う機会を設けて、対面で対話をしながら対応をしていきました。

事業成果と今後の課題ですが、会として、また個人としても、いろいろな学びがあり、多世代間交流が行えたことはよかったことだと思います。

これからの展望としましては、この1年、子供たちが主役の地域活動、次世代の担い手育成を目的に活動してきましたが、中学生は、なかなか部活や勉強が忙しいこともあり、また、多感な時期もあって、そういう行事に参加することが難しいということもありましたので、どうしたらいいかということを考えまして、桜の会自体をもっと幅広い世代に知ってもらうことが大切なのかなというふうに思いました。

例えば、ばらっぱまんじゅうづくり、こちら、この頂いた予算で蒸し器のほうを買わせていただきました。なので、それを毎年継続して行って、桜の会といたら、ばらっぱだねと思ってもらえるように活動していければいいなと思います。

以上です。

○委員長

ありがとうございました。

それでは、委員のほうから、御質問とかアドバイスとかを自由にやらせていただきますが、どなたかいかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

一番興味があるのは、やはり、ばらっぱまんじゅうです。私も地元出身で、生まれたときから7月末のお祭りのときに、おばあちゃんやら母やらが作って、それが当たり前だという感じで毎年食べていました。そして、私も今になってみて、ばらっぱまんじゅう、すごい懐かしいなと。小さいときは、別に覚えようとか何もなく、自然に親が作っていると思っていましたので、作ることでできる高齢者の方々がだんだんできなくなっているの、ぜひこれは、平塚、十倉一とか、浦部の阿夫利神社、ここのお祭りで、ばらっぱまんじゅう、お祭りに行くためにばらっぱまんじゅうも作っていたようなことも聞いています。ぜひ、ばらっぱまんじゅうは、若い世代に広げていただきたいと

思います。

そして、ばらっぱまんじゅうの写真ですが、これは、「にこドン」のキャラクターが
ついていますけれども、これはどうやってつけたのでしょうか。焼き印とかですか。

それと、書き初めもとてもいいイベントだと思います。ぜひ、私たちのほうの自治会
とかでも、コミセンとかのスペースを使って、書き初めは小学校、中学校、家庭で教え
る人がいないと、1回ささっと書いてだけで、それで終わらせてしまうというのが、う
ちの子供たちも、ずっとそれをやっていたので、こうやって皆さんで書き初めをす
るということは集中できるし、何回も書けると思うので、いい作品ができるのではない
かなと思います。そして、この書き初めのときは、教える先生はいらっしゃるのでしょ
うか。

あとは、3月24日の子ども会議で、小、中学生からは、どんな意見が出ましたかと
いうことで、ちょっとお聞きしたいと思います。お願いします。

○桜の会

ばらっぱについてですが、こちらの焼き印は、にこドンという第二小学校のキャラク
ターをつくっていただきました。この焼き印があったらいいよねと、押したら楽しいか
もねというのをきっかけにつくっていただいて、このばらっぱまんじゅうに、どれぐら
いの熱さでやれば、どれだけ写るのかとか、いろいろ試行錯誤しながらやったものです。

あと、書き初めについては、こちらは去年1回目に行ったときは、平塚分校のほうで
書き初めの先生をお呼びして、教えてもらいながらやったのですが、前回、去年の12
月に開催したものに関しては、書き初めの先生をお願いする時間もなかったので、場所
だけを提供するという形で、公民センターで場所だけ借りてやりました。場所を提供す
るというのは、自宅でやると家が汚れてしょうがないと、そういう御意見が保護者のほ
うからかなりあったので、じゃあ場所を借りましょうということでやりました。

子ども会議では、子供からこういうのをやってほしいというのが、相当子供たちが声
を上げてくれたのです。学校側から子供たちにアンケートをとるとというのは、とても簡
単ですが、まず、こういう小さな桜の会が、子ども会議をやるから子供さんたち来てく
れと言っても、内容が会議なのでなかなか来ない、集まらないのかと思ったら、そこに
来てくれて、わざわざ子供たちが声を上げるという様子が見られました。この中で、と
ても印象的だった内容がありまして、祭りをやってほしい、おみこしをやりたいと。あ
とは、ごみ拾いをみんなでやりたいのだと。これは私たち昭和の時代では、地域の人た
ちときれいにしようということでやらせてもらっていたのですが、多分、今そういうの
がないのだと思われるような子供の意見があって、こういうのがやりたいのかと思いま
した。

これは一部ですが、ほかにもいろいろな意見があって、祭りの中でも、こういうのを
やってほしいと具体的に挙げてくれる子もいれば、こういうのやりたい、サッカーがや

りたい、もっと思いつ切り走り回りたいと書いてある子もいて、どれが桜の会としてできるかというのを今後みんなで、これを基に考えていきたいなというふうに思っています。

○委員長

ありがとうございます。

子供たちがやってくれたというのはすばらしいですね。ほかはいかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

所属がPTAなものですから、桜の会さんと第二小学校のPTAとの関わりのこともお尋ねしたいと思っております。

第二小学校区は、市内でも一番子どもの人数が少なく、PTA会員も少ないというような状況かと思います。今、私が持っている資料ですと、今年度、第二小学校が60家庭というような会員です。ただ、会員数は少ないのですが、加入率は非常に高くなっているかと思うのです。ほかの学校さんのPTAですと、ここ何年か前から、市PTA連絡協議会としましても、PTAは任意団体ですよということを全面に打ち出しておりますので、なかなか加入をしていただけない学校区も非常に多いという中で、第二小学校区については、地域独特な今までの地縁といいますか、そういうがあるので、加入率というのは非常に高いのかなと思うのですが、どうしてもPTAに入りたいくないという方については、仕事をさせられるとか、やりたくないが当番で回ってきちゃって、無理やり強制的にやらされるのが嫌だから、PTAに入りたいくないよというような方が多いというふうに聞いておりますが、第二小学校区の場合は、ばらっぱですとか、PTAの方が御参加をいただいているようなのですが、PTAと桜の会さんとの関係といいますか、その辺はどういうふうになっているのかお伺いしたいと思います。

○桜の会

桜の会とのPTAとのつながりというのは、今、現状、桜の会のメンバーもPTAであるのです。中学校のPTAさんも、桜の会に入ってもらっているのです。だから、桜の会の中に、中学校のPTAさんと小学校のPTAさんがいるという状態です。なおかつ、私たち桜の会というのは、地域のみどりの里協議会の中にも入れていただいているので、全ての橋渡しという形で役割を担っています。今まで学校と地域別々でした、何々が別々でした、これの橋渡しの会みたいにもなっているので、情報が全て共有できるという。じゃあ自分たちの中で、どういう動きをしたらいいのかで模索して、1年間走ってきたような感じです。

どこでも温められるような、例えば今は、ばらっぱを小学校でやらせていただいて、桜の会と地域とPTAをつなぐために、ばらっぱをやっているみたいな。今まで本当にPTAはPTAだけだったので、そこをつないでいます。そういう関係です。

○●●委員

ありがとうございます。

今、小学校区まちづくり協議会が4つ動いてるのでしたか。私がいるところはまだ立ち上がっていないのですが、今お話に出たように、PTAだけだと、やっぱり限界がありますし、自治会は自治会だけとかというのもやっぱり限界があるので、まち協ができることによって、いろいろな情報の共有もできますし、その中にも桜の会さんのようなところがあれば、なお一層、その地域で盛り上がるのかなと思っておりますので、今後とも御活躍をお祈りしたいと思います。

○委員長

ありがとうございます。もうお一方ぐらいいけませんが、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

私からは、すこし端的な質問です。6ページのところに予算額と決算額があります。最初の予算に対して、決算額が半分以上の規模になっているので、先ほど課題として挙げられていた、なかなか意見をまとめて事業費を使って活動するというのが困難だったということが、この数字に表れているということなののでしょうか。半分以上になっているものですから気になりまして、その質問です。

○桜の会

そのとおりです。こういうふうに進みたいと思っていて、進もうという予算でしたが、それを願わないというところの話が出てきてしまい、それを遂行するに当たって、進んだほうがいいか、進まないで今年はそれを温めたほうがいいのかというところで、進まないという方向で、まずメンバーを温めましようとなったところがあります。

まず、やる行事の前にメンバーを温める、そこを温めなければ進めないという、ということもいろいろ今年1年学ばせていただいたので、もう一回初心に戻ってということで、本当にいろいろな学びをさせていただきました。ばらっぱまんじゅうづくりで使う蒸し器は皆様のお力で用意させていただいたので、まずは今、第二小学校区地域の桜の会という立場を使って、とにかく温める、メンバーの気持ちを温める。そして、周りの人たちとの交流をもっと深める。その上で、やりたいと思っている、子供たちのやりたいということかなえるべきかな、というところで、この報告書が出たという経緯になります。

○●●委員

ありがとうございます。

ぜひ「温める」上でも、予算を使うやり方もいろいろあると思いますし、今後また再チャレンジする機会もあると思いますので、ぜひ、せっかくの支援金の枠がありますから、前向きなものを期待します、というところです。ありがとうございました。よく分

かりました。

○委員長

ありがとうございます。発展型もありますので、お待ちしております。

それでは、桜の会さん、どうもありがとうございました。

では、続きまして、清水口つながり協力委員会さん、お願いできますでしょうか。

○清水口つながり協力委員会

清水口つながり協力委員会です。よろしくお願いします。

助成金を頂きまして、ありがとうございました。緊張のあまり、棒読みでさせていただきます。

まず、事業の目的ということで、その前に、我々はどういう集まりだったのかというのを、申請しましたときにも少し説明しましたが、現在、清水口小学校区では13自治会ございます。そのうちの7自治会、西白井駅の北側の7自治会が、30数年前から夏祭りというのを連合体でやっておりました。現在は、いろいろな事情から、今年は5自治会の連合体ですが、夏祭りをやっている中で、例えば私と●●は、2009年に、それぞれの自治会長として夏祭りに参加しましたが、そのときから、自分が実行委員とか実行委員長をやると、翌年以降、やっぱり顔のつながりがあって、何かいろいろお手伝いをしておりました。それが十数年経ち、どういうことになったかというと、自治会とは関係ない、横の別々の地域同士で、顔見知りになっておりました。

実は、2024年の1月くらいに清水口小学校で、小学校区の防災訓練というのがあって、市の危機管理監から御指導いただきながら、実際の訓練がありました。そのときに、私自身は自治会とは関係のない一般住民ですが、顔見知りですから、自治会長から出てくれと言われてじゃあ出ますよと言って出ていったら、びっくりしたことがあります。体育館で、おお、おまえも、おお、おおとか言って、それぞれ違う自治会から、役員でもないのに顔見知りがいっぱい出てきたのです。いつもですと、夏祭りしか集まらないメンバーだったのが、防災訓練のときに、実は地域を本当にまたいだ形で、何人かと久しぶりに再会しました。

そうこうしているときに、今度はこの助成金のお話がありまして、我々はお祭りだけかということ、そうじゃないよねという話になりました。防災訓練とかは、一戸建てであれば、高層住宅もテラスハウスもあるという中で、それぞれ困ることがあるのではないかと。そんな話から、防災を考えるような団体にしてもいいんじゃないかということで結成されたのが、清水口つながり協力委員会です。もともとは、お祭り実施の実質的な運営母体となっておりましたが、親睦をもとに地域の防犯・防災のための活動を行おうということで結成されました。

事業の目的ですが、高齢化も例に漏れずあります。そういう中で、意識のある人間が、お手伝いをできるだけ積極的にやっていこうという形で、28名の委員を連ねておりま

す。もともと夏まつり実施のサポートを通じて、自治会を超えたメンバーの親睦でしたが、防災訓練のときには、積極的に参加をしてやってきております。これをもっと広げていこうよという考え方でおります。

事業の内容として、実際にどんなことをやってきたかについては、2024年、夏祭り実行委員会というのが結成されるに併せて、つながり協力委員会側も、そこにサポートする形で参加を始めていきました。

実際には、7月21日、七次第一公園のところで鋼製やぐらというのを建てました。8月3日に自主運営をしまして、9月には、祭りだけじゃないよなということで、反省会兼これから防災活動などをどうしていこうかという話合いを持ちました。11月には、そなエリアという東京の有明にある施設の見学に行ったり、12月には防災講習会に参加したり、それから、そうこうしているうちに、市役所のほうから、小学校区まちづくり協議会という話が出てきました。我々、いわゆる自治会とか管理組合という縦割りの世界ではなくて、横につながっているメンバーが参加することに意味があるだろうということで、小学校区まちづくり協議会の設立準備会にも、団体としてエントリーしました。

それから、今年に入りまして、2月に行われた、市の防災訓練にも参加しております。また、2月には、横浜で毎年開かれております震災対策技術展というのを何人かのメンバーで視察をしまして、いろいろな最新技術であるとか、そういったところを勉強してまいりました。

それから、まちサポの団体登録は今までやっていなかったですが、市の社会教育団体説明会に参加しまして、一応まちサポの団体として団体登録をしました。

事業は28人、今日来ているのは、我々2人ですが、実際には、28名中25名が清水口地区に住んでおります。ほか3名は、野田市に1名、富士に2名住んでおります。要は清水口にはいないのですが、もともと清水口小学校、七次台中学校を卒業したメンバーが外へ行って、でも、我々と協力して、祭りであるとか防災訓練とかのときに一緒にやっております。

あと、告知方法については、13自治会の小学校区の支部会がありますので、そういったところでPRをし、アピールしております。

事業実施中に起きた問題とその対応策は、地域から1人、2人ほど離れたメンバーがいて、現在、仕事の関係で1年間限定ですが、石垣島に行っているメンバーがおります。石垣島へ行ってどうするんだよと、夏祭りのときにいないじゃないかという話になりましたが、リモートで意見交換をし、新しいお祭りとか防災訓練の関係で、市役所とのやり取りをどうする、こうするというのは、石垣島に行っている彼が経験者なものですから、電話とかメールでやり取りをして情報交換をしております。

それから、メンバー28名については、8月の祭りに向けての手伝いを、いつ、どう

いうことをやるというのをやり取りしなくちゃいけないということで、情報交換しています。それはメーリングリストを使用して適宜やっております、かなり頻繁なメールのやり取りが毎日のようにあって、パソコンを半日開いていないと、質問がいろいろあって答えるのが大変ですが、そんなふうにコミュニケーションをとっております。

事業の成果と今後の課題ですが、もともと祭りをサポートする、先ほどから祭りという単語が出てしまっていますが、単なる祭りが好きなおっさんというわけではなく、防災ということをキーにしたときに何ができるかとか、どんなことを考えたほうがいいだろうというのでも検討しております。

ちなみにメンバーは、一番若いのが31か32歳で、一番年寄りが78歳で、平均年齢が去年までは49歳と言っていたのですが、今年は1年経ったので、50歳を超えてしまいましたが、バラエティーに富んでおります。

職業も、プロの運送会社の運転手、大型の運転手から、それから消防、救急隊員のレスキュー隊員とか、広告関係の人とか、それからコンピューターのSEのプロフェッショナルとか、いろいろなメンバーがおりまして、何かと相談をしたときに頼りになるメンバーでございます。

今後の課題は、小学校区まちづくり協議会設立準備会の参画もしております、地域貢献について、やはり我々はあくまでも固まった28名で、考えることは大体似ていますが、まち協の準備会へ行くと、いろいろな人がいろいろな意見を持っているというのは、目を見開かせてもらえていると思っております。

下の写真は、お祭りの風景でございまして、にぎやかにやっているものです。

それから次のページが、夏祭り、レンタル照明と書いていますが、去年に助成金を頂いて、それで、このバルーンという大きい照明を借りることができました。今までですと、お祭りのときのテントやメインのステージ以外のところは非常に暗い。その中で懐中電灯とか、個人でランタンを持ってきて、そこで皆さんが飲食をしたり、会話をしたりしていたのですが、それでも暗いので、もっとにぎやかにさせたいなと思いまして、このバルーンという、高速道路の夜間工事などで使われているものを2基借りまして、東と西に設置しましたところ、非常に好評でした。

最後の写真は、そなエリアという、有明に行ったときのものです、これは大変よかったです。災害が起きたときのシミュレーションで、エレベーターに乗っていたらいきなり止まりました、さあ、どうしますかとやったときに、防災に関して結構やっていたつもりでしたが、私が一番間違えた対応をしてしまいました。じーっと待っていて、フロアに留まると思っていたのですが、そうではなく、全部ボタンを押せということでした。そうなのとか言って、いろいろなことを勉強させてもらいました。以上でございます。

○委員長

ありがとうございました。

では皆さん、御自由にどうぞ。何かありますか。

どうぞ。

○●●委員

社会福祉協議会は、今、地域のつながりということで、地区社協を中心に事業を展開しているのですが、まさに自治会の役員からつながって、こういう活動に発展しているというのは、すばらしいことだなと思います。一つの今後の地域での住民の方のつながり合いの参考となるので、引き続き頑張ってくださいと思います。ありがとうございます。

○清水口つながり協力委員会

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。応援メッセージということで。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

御説明ありがとうございました。

いろいろな視察をされたということですが、視察を通じて地域に取り入れた防犯・防災対策があれば、教えていただきたいです。地域でどんな課題感を持っていて、それをどう対策したか、または、今後しようとしているかみたいな、何か例があったらお聞きしたいです。お願いいたします。

○清水口つながり協力委員会

一つは、去年のバルーンという照明を使ったことによって、明るくなるということです。我々が想定していたのは、市としては、いざ、大災害が起きたときには、清水口小学校体育館に避難所を設けると。いろいろな考えがありますが、体育館の中に入れる人間は限られているなと思いました。それから、いろいろな家庭の事情、家族の事情によって、あまりそういう体育館という狭い場所に寄せ合っているというのが不得手な方々もいるだろうなとも思いました。そうすると、私自身の考えとしては、小学校の校庭か、まさにお祭りで使わせてもらっている七次第一公園にテントを張ればよいのではないかと思うのです。

ところが、問題は照明です。バルーンを使うことによって、2基でかなり明るく見えたので、小学校の体育館だけじゃなくて、校庭にも、それから七次第一公園にもそういうのを設置すれば、かなり明るさという意味では、いいよねと思ったのです。

ここでまた、じゃあすぐ買えばいいじゃないかと思いますが、買うことに躊躇しているのは、100ボルトの電源がないと使えないということです。高速道路で使われているものは、エンジンの発電機付きです。そうすると、エンジン発電機付きを使えばよい

となるかもしれませんが、ガソリンの保管をどうするという問題になります。知識はそれなりに増えていますが、それを本当に解決するにはどうしたらいいかというので悩んでいます。

それから、会議で親しいメンバーが、コアなメンバーで会話するときに、彼は5階建ての5階にいますと、私は今マンションの1階に住んでいて、もう一人は戸建てにいますと。そうすると、それぞれの事情が違うよねとなります。じゃあどうする。それから、どうしても高齢化という形で、先ほど言いましたように、若いメンバーが30代、それから40代、50代、60代といますが、そのメンバーからしたら、災害があってもどうってことないよ、位に思っているのです。ところが、私が、今73歳ですが、あと5年も経って、よれよれになっていったら、どうしようかと思うのです。そういうメンバーがいろいろ助け合うということを考えたときに、何が本当に必要なのかというので、いつもそこで議論が止まっています。

それから、勉強になったのは、私は意識して、お水とか缶詰とか持っています、実は意識しているメンバーは、もう持っているのです。自助・共助・公助と言いますが、意識していない人たち、公助や共助を期待する人たちは、持っていないので、その人をどうするかが課題です。

一方で、我々のような有志団体が、どこまで啓蒙教育させられるかという、まだまだそこまで至っていないところです。答えには余りなくてすいません。

○委員長

大丈夫です。十分です。

よろしいですか。

○●●委員

ありがとうございました。

○委員長

あともう一人、質問できますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

私もお話伺っていて、桜の会さんは、ある意味PTAから独自の進化を遂げた有志の団体さんで、清水口つながり協力委員会さんは、自治会のつながりから新たな団体が立ち上がってという、なんで白井は、こんな面白い団体さんがどんどん立ち上がるのだろうかというのが、すごくユニークだなと思いました。

私も災害関係の法整備に最近少し関わっていますが、この4月1日から新しい災害救助法と災害対策基本法というのが施行されて、その中でもおっしゃったとおり、これまでは避難所という、体育館とかという場所への支援だったというのが言われていて、避難所に行けば、何か支援が受けられるようになっていました。ただ、在宅避難とか車中避難している人は、あまり支援が受けられないという状況で、場所に対する支援だったのが、これからはもう意識を変えて、災害救助法に福祉というのにも入りますが、そう

じゃなくて、場所に対する支援じゃなくて、人に対する支援にしていこうという方向になっていきます。

だから、どこに避難していても、その人たちに支援を届けるんだという、一応そういう題目で大きな法整備も行われますので、ぜひ皆さんも、いきなり大上段からということではないですが、一步一步、ぜひこの取組を続けていっていただきたいなと私も思いました。委員長の特権で語らせていただきました。

では、続きまして、視察にも御協力いただいたグリーンレンジャーさんです。どうぞよろしくお願いいたします。

○グリーンレンジャー

南山公園の葛等対策事業を実施したグリーンレンジャーです。

今日は隊長の●●と事務局長の●●の2人で参加しておりますので、よろしくお願いいたします。

活動場所は南山公園です。赤い線が公園区域で、青い線、これが防災調整池です。公園との兼用施設になっております。河川区域は千葉県が管理して、そのほかは白井市が管理しています。この公園、住宅地の中にあって、非常に美しい水辺の公園です。しかし、今では、法面は葛とか雑木で覆われてしまっています。以前はきれいだった法面は、笹竹が生い茂り、遊歩道からは水面が見えなくなりました。

この原因は、5メートルの幅刈りしかしていないからじゃないかと、私どもは思っています。両方の境界から、左側が公園で、右側が調整池ですが、その5メートルからこちら側は、公的管理が及ばない範囲のようです。そこで、2020年には、我々の仲間が葛とか雑草退治を始めました。葛を引き抜いたり、あるいは刈り払い機で草を刈ったりと、そういうことをやっておりました。

活動の周知については、現地にある橋のたもとなどに、チラシを張ったりしております。あるいは、名刺を作りまして、知人を勧誘し、こういったことも周知活動としております。それからまちサポの前にも、このPR板を設置してもらっております。最初12人でしたが、現在、出入りがありまして、隊員は13人。一応、全員何とか元気な高齢者と、こういう感じです。

活動の日程は、毎週木曜日、午後の2時から4時まで2時間程度、雨とか風とか雪とか暑い日とか、そういったときは休みましょと、こういうふうにしております。

令和6年度の収入ですが、我々、繰越金が2万7,000円と、それから会費として2万4,000円ありました。これを合わせて自己資金として5万1,000円ありますので、不足分を市民団体活動補助金で19万2,000円を頂いております。そのほかに、県のほうから支給金として9万9,000円程度。それから、環境課の沿道みどりの補助金で2万円。それから、そのほかに、セブンイレブン記念財団の助成金として15万円ほど頂いたりしております。

白井市の活動発展型の補助金で今年はベストを買ったり、あるいは物置倉庫を買ったり、充電式のチェーンソー、刈り払い機など、多くの備品、消耗品をそろえることができました。

それから、県の印旛土木事務所ですけれども、これはアダプトプログラムに基づいて、次のような消耗品の支給を受けております。

一つは、草刈りの替え刃とか、あるいは踏み抜き防止のインソール、ドライバードリル、切り傷防止の手袋、それからフレコンバックです。

セブンイレブン記念財団では、これも助成金で、ブロアとかフレコンバックとかリヤカーとかを買っております。これらを使って笹竹を切り払いますと、水辺が見えるようになりましたし、あるいは通学路、これの見通しも大変よくなったと、こんな状況でございます。

また、堤体をこれまで葛がやたらと生えまわっていましたが、これも活動後は大体、石張りの法面が見えるようになったり、あるいは、冬にはカモが羽を休めるようになったりと、こういったこともあります。

それから、台風なんかで倒れた竹林がありましたが、この中には、ごみも捨てられたりしていましたが、これは、倒れた竹を切って並べたりしております。

南山公園、いろいろな小動物がいます。タヌキとかカヤネズミとかウグイスとかカワセミとか、こういう小動物の生息環境保全にも配慮したいということで、水辺から5メートルは笹竹を残すようにしております。

それから、今後は、笹を切り取った後に、こういうふうにできれば桜を植えられたらいいなとか、あるいは、水生園の跡地がありますが、ここをできればビオトープみたいにするかなとか、あるいは、もともとの菖蒲園に戻せるかな、あるいは、こういうチューリップ畑にでもするかなと、こういういろいろなアイデアがあります。幸い南山小学校区では、まちづくり協議会が昨年末にできましたので、こういったことをまちづくり計画に入れて、園児から高校生まで参加して、南山公園の再生ができればなというふうに思っております。できれば、きれいになった法面で、我々、ビールでも傾けて夕日に乾杯できたらなというのが我々の望みです。

それから、これからの展開ですが、この活動発展型の補助率というのは、1回目は自己資金が20%、それから市の補助金が80%というわけでしたが、これが2回目、3回目になりますと、自己資金が50%に上がりますと。市の補助金が逆に50%に下がると。こうなりますと、我々、自己資金があまりない団体なものですから、残念ながら、この補助金への応募は諦めざるを得ないのかなというふうに思っております。これまで大変、本当にありがとうございました。おかげさまで、いろいろ活動ができました。引き続きよろしくお願いいたします。

終わります。

○委員長

ありがとうございました。まず、パワポがすごく作り込まれていて、私も、こんなすばらしいパワポを作れないので、どこかで教えてほしいぐらいです。

では皆さん、何かありますでしょうか。ご自由にどうぞ。

どうぞ。

○●●委員

去年は、たしか委員会的时候にも竹を持ってきていただいて、竹の半割りしたものは、私も筆ケースみたいな形で、今も書斎で使わせていただいております。

去年、視察でも伺わせていただいて、審査の関係でも少し申し上げたかもしれないですが、保全活動を非常に熱心にされていると。保全とともに申し上げたのは、保全・活用・継承、この三つのキーワードが、この環境活動ではとても大事であろうというようなお話で、グリーンレンジャーにもキッズとかもヤングとか、継承者を見据えたこともどんどん広げていければいいのではないかと思います。お話もいたしました。

去年、視察をして改めて思ったのは、活動されると、かなりの量のバイオマスが出てくるのです。保全に伴う発生残渣が出てくる。ああいったものを有効活用することによって、自己資金に充てていくような、そんな方策は十分考えられると思うのです。

私が東北地方でやっている類似の保全・整備の取組で、竹とか笹とか、様々大量に発生していましたが、あの手のものを1時間ほど無煙炭化器で炭焼きにすると、1万5,000円の収入が発生します。そういうふうにしていくと、自主財源の可能性も出てくるでしょうし、先ほどその活動の楽しみとして象徴的なビール代、飲み代にも出てくるのではないかなというふうに考えられますので、ぜひ、そういったバイオマス活用の部分は、イベント的にも実施できると思うのです。

炭焼きをやる過程では、たき火みたいなものなので、イベント仕立てにして取組をすると、炭もできるし、焼きイモもできるとか、様々活用と共にさらなる楽しみの可能性があるかと思います。インターネットで無煙炭化器とか検索すると、すぐいろいろな装置が出てきますので、可能性を模索されてもいいんじゃないかなというふうに思いました。ぜひ、活用を通じて収益構造も生まれる可能性もあるのかなと思いましたので、そういうコメントです。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。

特に竹炭販売とかどうですかという話ですが、いかがでしょう。

○グリーンレンジャー

模索したいと思いますが、ただ、例えば炭焼きするのに、材料といいますか、設備を整えなきゃいけないとか、そういうのがあるかと思いますので、なかなかその辺の資金

をどうしようかというのは考えています。

我々もチップ化をしようかと考えたこともありますが、騒音が大変そうだねとか、機械代が結構お値段がかかるなどか、あるいは、ほかの団体、具体的にしろい環境塾さんですけれども、そこにあるチップー使わせてもらえるかなと思ったら、そこまで運ぶのに金がないとか、トラックがないとか、とにかくやたらと金が必要だなということが分かりまして、なかなか先立つものがないと、いろいろ模索するのも難しいなと思っております。

○委員長

あと、場所柄、住宅地に近接しているから、火器を使っていいか、とかということですかね。煙とかも発生しますし。

○●●委員

無煙炭化器についてですが、検索していただくと、非常に単純な装置もあるので、安く、しかも簡易な。ちょっと調べてみられればよろしいかと思います。何かあれば御質問いただいても結構ですし、情報提供します。

○グリーンレンジャー

ほかの助成でセブンイレブンなどがありましたが、こちらは自己負担が要らないものですから、そういったところで申請するとか、そういったことで試してみようかなというふうに思いました。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

今日は、グリーンレンジャーさんにお礼の言葉を申し上げたいなと思います。

実は私、南山小学校の地区社協の推進員をやらせていただいています。毎年、南山小学校でゲーム大会というのが行われるのです。今年も7月5日の日にやるのですけれども、笹竹に洗濯ばさみをぶら下げて、そこにスナック菓子というか、駄菓子みたいなものをぶら下げるゲームがあるのですが、その笹のぶら下げる竹を毎年ある団体さんからお借りしていましたが、借りるのもなかなか大変だしということで、また今年やらなきゃいけないということを去年思っているときに、視察をさせていただき、あ、笹があったなと思いました。たくさんあったと思って、これを利用したらどうなのだろうというふうに思ったので、市民活動支援課に御相談させていただいて、すぐに連絡を取っていただき、また、すぐに届けていただいて、それにニス塗ってくれる推進員の方がいたので、ニスを塗って、今年は新しい笹竹で、7月5日の日にゲーム大会をすることができます。本当にありがとうございました。

○グリーンレンジャー

ありがとうございます。お役に立てて光栄です。

○委員長

素晴らしいです。

○●●委員

どうもありがとうございました。

○グリーンレンジャー

図書館の七夕の竹は、我々が提供しています。今年も、明日、竹をお届けする予定です。

○委員長

明日は定例の活動日ですもんね。ほか、いかがでしょうか。

それでは、どうぞ。

○●●委員

私は、去年、現場を見させてもらいました。すごいことをやっているなと本当に感心しました。実際にこれだけの広範囲の場所を活動することをしながら、自己資金なんかつくれというようなことというのは、本当に酷な話だなと私は思っているぐらいなのです。これだけのものを市が助成だけで、あれだけきれいにしてもらおうということになるというのは、本来ならば、行政が本当にお金出してやっていただく、委託事業じゃないけれども、そういう方向へ持っていってもおかしくないかなというぐらいの活動しているのを私、本当に感心に思っております。

皆さんも高齢者の中、頑張っているなと思っておりますが、補助金制度に入らないで何かやらなきゃならないとなると、本当に大変だなと思っておりますけれども、何か別な方法なんかあるのかなということで。私としては、個人的にはずっと思っておりました。本当にいろいろありがとうございます。本当に御苦労様です。

○委員長

ありがとうございます。

先ほどコメントも最後のほうにありましたが、補助率の関係で、発展型の継続は申請されなかったということですが、もちろん我々のほうでの宿題としては、補助率の問題を検討するというのが、委員会としてのお題として頂いたのですが、グリーンレンジャーさんとしては、今後どういう資金調達を考えていらっしゃいますか。

○グリーンレンジャー

資金調達とは少しそれるかもしれませんが、一つには、これまで頂いたお金で結構、機材についてはそろってきたなという気はしています。そういう意味では、これから必要なのは、消耗品が中心になると思っております。消耗品であれば、県の場合、年間10万円未満であれば消耗品が支給されますので、それをやっていこうかと思えます。

それからもう一つは、さっきもありましたセブンイレブン記念財団とか、自己負担が

要らない助成金がありますので、それを利用することもあるかというふうに思っています。

それからもう一つは、例えば公園の管理について、市民団体が管理するという制度がありますので、それもできないかなと思ったのですが、例えば児童公園とか街区公園とかの管理で、清掃するとお金をくれるというのがありますが、ほかの団体もやっていますので、そこを横取りするわけにもいかないなど。

南山公園がそれをできないかなと思いましたが、あそこは大き過ぎて、逆に我々は任意団体なものですから、せめてNPOとか、そういうところであれば発注できるとか、そういうこともあるかもしれませんが、任意団体では難しいと都市計画課から言われて、なかなかそういうお金も入ってこないなというふうに思っている次第です。

○委員長

ありがとうございます。それではお時間も来てしまいましたので、グリーンレンジャーさんは一旦ここまでとさせていただきます。どうもありがとうございました。

○グリーンレンジャー

最後に少しだけよろしいですか。

○委員長

どうぞ。

○グリーンレンジャー

先ほど●●委員のほうから、活動の三つの問題点として、保全と活用、継承というお話がありましたが、やっぱり継承が、我々の中で今大きな問題でして、最年長が88歳なのです。この間まで最年少が69歳だったのですが、先日、なんと21歳の若者から、ぜひ活動に参加したいという希望がありました。みんなで、えらいこっちゃと喜んでいたのですが、一度来られて活動をしたところ、活動のあまりの体力的消耗と激しさで、1回で音を上げて来なくなったのです。やっぱりなかなか続けるのは難しいなということで、今、ポスターで隊員とか募集やっていますが、ここにいらっしゃる皆様方で、こういう活動に興味のある人を御存じの方いらっしゃいましたら、ぜひ御紹介いただければと思います。

それともう一つ、これまでも何度も申し上げてきました、松の木枯れて、随分切っちゃいまして、あとが非常に寂しい状態になっているので、植樹をお願いしたいということを何回か申し上げたのですが、なかなか動かないみたいで。先日、南山公園にスイセンの横の階段のところにネムノキが自然に着床していまして、今、高さこれぐらい、60センチぐらいまで育っているのです。よく見ると、南山公園、結構ネムノキがいろいろなところがありまして、我々が今考えているのは、ネムノキ、種ができます。豆みtainなやつができるので。それをまいて、ネムノキを育てようかなと思っています。これも恐らく市の許可が要るのかもしれませんが、それはまた改めて御相談したいと思い

ます。お時間いただいてしまいすみません。

○委員長

とんでもないです。ありがとうございました。

では、続きまして、白井市文化センターを未来につなぐ会さん、よろしくお願いいたします。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

私たち文化センターを未来につなぐ会は、子供から大人まで文化センターに来てもらって、文化センターのよさを知ってもらいたいという目的を持って、おとしし立ち上げました。

それで、去年初めて補助金を頂いて、事業を企画して、無事、文化センター調査員を救えという謎解きゲームを夏休みに企画しました。夏休みだと、小学生から来てもらえるのではないかとということで、こういうチラシに、スマホを使ってQRコードを用意してありましたので、そこからゲームに入ってもらおうというふうに考えました。それで、媒体がスマホだと、やはり小学生だけだとできないということで、親御さんにも一緒に来てもらえるんじゃないかという形で進めました。ここに資料が置いてありますけれども、線分カンタ君という、この子が出したクイズを一つずつ解いていくという流れになっています。

最初は練習問題から入って、4つぐらい、文化センターに来なければ解けないという形になっていますが、とても私も難しかったのですが、逆に謎解きなど慣れている方だと、そんなに難しくない、初級クラスですということでしたが、分からなければヒントを出してもらったり、最終的に答えを出してもらったりしながら、4つの問題を解いていくという形で行いました。

多くの子供たちに参加してもらうためには、このチラシが手元にあって、QRコードが手元にあってのことだと思って、チラシ代の印刷代とか、補助金で作ることができたことは、とてもよかったと思っています。

あと、参加者としては、200人ぐらいは登録してくださって、クリアできたのは72名ということなので、ちょっと難しかったのかもしれないですが、質問もできるQRコードもありましたので、何件か質問も来ていました。

ただ、7月の1日から8月の末までの長期間で実施しましたので、結局、無人でしかできず、日曜日に様子を見に行くことはできましたが、謎解きの最後に、郷土資料館の前に机を置いて、赤い金庫を置いて、出た答えで金庫の鍵の番号が分かって開けられるという仕組みになっていましたので、答えが分かったが、金庫まで来ないで帰った子たちもたくさんいたようでした。

報告としては以上です。

○委員長

終わりであれば、それで大丈夫です。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

それで、恒例化したいな、楽しんでもらえた子たちには、また楽しんでもらいたいと思いましたし、できなかった子たちにも楽しんでもらいたいと思い、また今年やりたいなと思っていましたが、補助金は、私たちは活動促進型として7万円の中から、そんなにお金かからなかったもので、2万4,000円を補助していただけたのですが、1年に1回だと思ったので、今年も1回、申請して活動できるのかなと思って申請書を出したら、これは1回ですということで、1年に1回じゃなかったのだわと思いました。

ほかにもしたいことがあったので、今年は何とか頑張って内輪でということで、補助金は頂かないで、できる形で今、動き出しているところです。別の補助金がもらえるところはないかしらと考えて、いろいろ調べていただいたりしたのですが、時期的にはほぼなくて、今から申請すると来年度の活動になってしまうということなので、一番思ったのは、時期が4月からの1か月間の申請が、3月ぐらいからあったら、そういう形で何か工夫できないかなということを考えていました。

以上です。

○委員長

ありがとうございました。

それでは、また意見交換のアドバイスに移らせていただきたいと思います。委員の方、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

去年、私もこの謎解き体験を最終日にさせていただきました。この帽子を作りました。

私も社会教育士なので、この社会教育施設の有効活用だったり、存続だったり、非常に関心事項です。今回の事業の目的としては、何といても、この文化センターとか郷土資料館とかの関心を高めたり、今後いろいろな改修事業等々も見据えて、何か発信していったりという、そういった趣旨だったと思うのです。根本的な趣旨、目的のところに關しては、今回の事業というのは、どのような効果があったというふうに認識されているのかというのを聞かせてもらえればなと思いました。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

まず、足を運んでもらうというところは一番でしたが、ゲームが終わってから、最後にアンケートをつけまして、関心がありますかとか、改修があるということを知ってもらいたかったので、そういう文をアンケートの中には入れましたので、やってくださった方たちには伝わったかなとは思っております。そのぐらいですかね。

○委員長

大丈夫ですか。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

楽しい事業でよかったなと思うのですが、文化センターを未来につなぐということで、文化センターって、いろいろな建物がありますよね。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

はい。4か所あります。

○●●委員

プラネタリウムだったり、図書室があったり、いろいろなのをまとめて文化センターですよ。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

そうですね。

○●●委員

今回のこの事業に関しまして、いろいろなところをめぐるのですかね。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

1問目は、プラネタリウムに行って、惑星の重さか大きさとかということをヒントといますか、そこを見ないと解けない。2問目は、図書館の中に入らないと解けない。3問目は外だったかな。ミロのビーナスのところにいろいろな文言が書いてあって、そこに答えがあります。最後は、郷土資料館も、中に入ってみて答えを見つけるというような形になって、4か所めぐるようにはなっていました。大ホールと中ホールは、通り過ぎる感じでしたが。

○●●委員

ありがとうございます。図書館は行くけど、郷土資料館があるの知らない子も多いですし、かおりホールとか、なし坊ホールって、いつもどこかに貸出しているので、なかなかそれを見る機会もないので、子供たちにとってとてもいい機会だったのではないかなと思います。

これが続くといいねと今思いましたが、いろいろな意味で難しそうなのですかね。自己資金ということですか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

でも、何とかこれから資金繰りを頑張って、マルシェとかに参加して、少しでも思っ、行う予定であります。

今年はこれからいろいろ製作中ですが、日にちは7月20日から、本当の夏休みからにしました。去年は7月1日からで企画したのですけれども、休みが19日から入りますから、19日に準備をして、20日から8月いっぱいというふうに期間は設定する予定です。これから広報にも載せますし、チラシも昨年どおり、小学生には配ろうと思

って作成しています。

そして、文化センター中ホールのほうでは、今年の11月に、赤ちゃんからのコンサートを、やっぱり親子さんに来てもらいたいので、それも決まっています。その次の年は大ホールというふうに、やりたい夢はありますが、実現できればいいなというところで、今その準備も進めています。何せ会員が少なく、会費も少ないので、資金繰りというところでは、さっき言ったように、1か月じゃなくて少し前からするとか、借りられない分とかをほかの生協かどこかの補助金とか申し込めるとよかったとか、今年、間に合わなかったのも、それは思いました。

以上です。

○●●委員

ありがとうございます。ぜひ続けていただきたいと思います。頑張ってください。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

この事業は、それほどお金を使うわけではないと思うのですが、文化センターが独自の予算というのは持っていないのですかね。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

文化センター改修のためには、すごくお金がかかるようで、改修するに当たって、やはり市民の意見を聞いていただきたいというのがあります。どこまで聞いていただけるか分からないですが、こちらが伝えたい気持ちを聞く、という機会も持ってもらいたい。それから、大規模改修を知らない市民の方がたくさんいるので、まずは知ってもらいたい。そして、どういうふうな形で改修してもらったらいいのかなということも、みんなで考えたいですし、市民の意見として一応届けたいというのが、一番の行いたいことです。それについて附属してきて、こういう形で、身近な形で考えてもらいたいという感じです。

○委員長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

そしたら、白井市文化センターを未来につなぐ会さんは以上とさせていただきます。ありがとうございました。

では、あと10分弱になりますが、最後は、全体を通して意見交換ということで、特

に何個か出ておりましたけれども、この補助制度自体とか、ないしは、今日はセンター長もいらっしゃいますので、まちサポに対する何か御希望とか、そういったことがあれば伺いたいと思います。

まず、桜の会さんとかいかがでしょうか。ないですか。よろしいですか。

続きまして、清水口つながり協力委員会さんはいかがでしょうかね。

○清水口つながり協力委員会

我々も実は、1か月の申込み期間があるというのを知ってはいたのですが、何か知らせが来るだろうみたいな感じで、それで気がついたときにはもう終わっていて。しかも、期間を過ぎたら受け付けないというのが明確に書かれていて、がっかりしました。お忙しいとは思いますが、過去申請をしたところには、お知らせをプッシュでもらえたらよかったなと思いました。

○委員長

そういった意見が大事です。申込み期間というのは、補助金の申込み期間ということですね。

○清水口つながり協力委員会

そうです。

○委員長

ありがとうございます。

グリーンレンジャーさんは、いかがですか。先ほどもありましたが。

○グリーンレンジャー

補助率80%の継続をよろしくお願いしたいなと思います。

○委員長

非常に具体的な御提言をありがとうございます。

あとは、未来につなぐ会さんは、いかがでしょうか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

いえ、特には。

○委員長

特にはないですか。御遠慮なさらず、別に大丈夫ですので。本当によろしいですか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

活動促進型が1回しか使えないというのが、勘違いしていたので、説明会にちゃんとしっかり出たのにもかかわらず、1回と書いてあったので、1回しか私は申し込まないわと思ってという、そこのところは、結果的にすごく違ってきちゃったので。そして、やっぱり期間が長かったら、よかったなということです。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。

では、そんなのも受けつつ、委員の皆様から何か御意見とかあれば。

まず、先によろしいですか。

○●●委員

先ほど、確かに一度補助金を利用した団体には、何となく常識的に考えると、きっと、今度ありますよということが来ると。

○委員長

お知らせがね。

○●●委員

お知らせがくるのだろうと、私も含めて思うと思うのです。多分、お知らせが来なくて分かるのは、先ほども出ていました沿道みどりみたいに、季節で花苗を買わないといけない。これは忘れないのですよね。ほかは無理なので、一回でも手挙げて、それなりの実績のあるところは、ぜひ案内をしてくださるように、市全体がやってくだされれば本当に助かると思います。

○委員長

ありがとうございます。

○●●委員

関連しての質問ですが、周知というのは、市のほうでは今回どんな形でされていたのですかね。なかなか伝達するのは難しい状況なのでしょうか。

○事務局

お答えいたします。

ありきたりですが、市のホームページ、広報等での周知です。あと、ここは事務局内での連携がうまく至らなかったかなと思うのですが、私が、窓口で直接担当したときは、今日の成果報告会の日程のお知らせの際などに、いつから募集始まるよみたいなことをさせていただいておりました。

本日の成果報告会と今年度の募集の2つを合わせて御連絡させていただいていたのですが、そこが至らなくてできていなかったというところがあったので、そこは徹底して、次年度以降は連絡するようにしたいと思っております。

以上です。

○委員長

常に意識している方は、ホームページに見に行くのですが、日々皆さんも忙しく活動されているので、どうしても、私もよく原稿の締切りとか忘れるのですけれども、お知らせをプッシュ型とかいいますけれども、それこそ、これまで採択されていた団体さんとかには、ぜひプッシュ型でお知らせいただくといいのかなと私も思いました。

他のご意見は、いかがでしょうか。

あるいは、団体さんから、何かまだ言い足りないこととかありましたら。もちろん、全部実現できるかどうかは分からないのですけれども、忌憚ない御意見をお寄せいただければと思いますけれども。よろしいですか。

本当に御遠慮、桜の会さんはいかがですかね。本当に大丈夫ですか。

委員の方からも特にはないですかね。

●●委員。

○●●委員

先ほど未来につなぐ会さんが、おっしゃっていたことで、説明会に出たにもかかわらず勘違いをされるという、その説明会の在り方というか、説明の仕方をもうちょっとかみ砕いて分かりやすくさせていただくことはできないかなと、ちょっと思いました。

○事務局

促進型というもの、文化センターさんが受けていただいたものについては、1団体1回きりですと、そういう案内を従前もさせていただいていたかなというふうに思うのですが、そのこの捉え方に違いがあったのかなと思いますので、1団体につき1回限りなのだということを、より丁寧に説明していく必要があるかなとも思います。

今年度、発展型で応募いただくことは、実際は可能でした。直接窓口でお話しさせていただきましたが、先ほどの中でもありました、大ホールですごく大きいイベントを来年に控えているというようなお話もございました。それを考えると、大ホールを使う来年度というのは、補助率のことを考えると、今年度受けてしまうと、50%というようなこともあり、それであれば、1年置いて、来年度に大ホールを使うときに8割使える補助申請をするのも一つです。ただ、それは私が決めることではないので、話し合ってくださいというようなお話をさせていただいて、今回は見送るという御判断をされております。その辺は、私どもも促進方が1回きりだよというところの補足は、きちんとしていく必要があるかとは思いますが、今年度、補助を申請しなかったというのは、そういう経緯がありますので、その辺も御考慮いただければというふうに思います。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。ほかはいかがですか。

●●委員、何か一言ありませんか。大丈夫ですか。

○●●委員

今日、初めて参加させていただきまして、各団体の皆さん、非常に熱意を持って活動なされていることにすごい感銘を受けました。

ただ、白井市、千葉ニュータウン入居世代の方々が、今まで背負ってくださっていたというような世代の方が多くいらっしゃるということで、これからの活動をどう維持していくというのが大きな課題なのかなというのを感じたところです。

○委員長

ありがとうございます。そういったことを応援していくのが我々の委員会の使命でもあるので、今日、各団体さんから頂いた宿題も、特に補助率のことは非常に具体的な御指摘も頂いておりますので、これは我々の宿題として検討をしていかなければならないなというふうに思います。

先ほども事務局からお話もありましたが、促進型については、発展型というものも用意されておりますし、これ、事業内容が全く同一だと制限がかかりますが、皆さん、1回受けた団体さんも、別の事業として申請すること自体が一切禁止というわけではありませんので、また別の側面で考えていただいて、この白井市の補助制度にチャレンジしていただくとか、あるいは、グリーンレンジャーさんもセブンイレブンさんの新しい民間助成金にチャレンジされたりとかも考えられます。

私もメルマガを自分の団体で出していますが、今は本当に6月末の助成金シーズンで、うちのメルマガだけで、70件ぐらい助成金情報を載せていますが、6月締切の助成金も多々ありますので、そういうのは、まちサポさんに聞いていただければ、ちゃんと教えていただけたと思いますから、ぜひ、そういったものも活用していただければなと思っております。

それでは、お時間若干延びてしまいましたが、この議事の3につきましては、以上とさせていただきます。特に御参加頂いた各団体さんの皆様、本当にお忙しいときにありがとうございます。

それでは、事務局から事務連絡をお願いいたします。

○事務局

皆様、ありがとうございます。事務局から4点ほど御説明がございます。

1点目が、先ほどの成果報告会の中でお話しをいただいたことに関係してくるものになりますが、スケジュールの話であったり、補助率の話であったり、そのあたりについてお話をいただいております。こちらが至らずに、対応がうまくなかった部分があったのかなと思います。申し訳ございません。

事務局としても、次回以降の会議に関係しますが、今回、応募があった団体が少なかったところからも、このあたりについては検討していかなければいけないなという課題として考えております。今後、皆様に、このことについて議題としてお示ししていきたいと考えております。具体的には、白井市の補助金については、現在、市民団体活動支援補助金という市民団体の活動を支援するものですが、提案型の課題解決型の補助金についても、今後考えていきたいと思っています。今の補助金と統合していくのか、別々にするのかというのはありますけれども、そのあたりについても検討していきたいと思っています。

この補助金については、実は、私も10年ぐらい前までは、この補助制度を担当して

おりました。そのときは、今でいう「促進型」が「活動立ち上げ型」という名前になっておりまして、立ち上げだと1団体1回だけというのが分かりますが、名称の変更により、分かりづらくなってしまった部分がございます。また、スケジュールに関しましては、現状のように、募集を4月頃からして、皆様にこの時期に決定するとなると、補助期間が実質的に1年間のうち、10か月もない状態になっています。

過去には、予算がついた場合は採択しますというような形で、年度内に募集をやっていたので、そのあたりを踏まえて、審査時期については、4月早々になってしまうかもしれませんが、スケジュールを少し前倒しにしていく方向でやっていきたいと思っています。そのようなスケジュールであれば、前年度に促進型を申請された方に、募集がありますよということを、実績報告をしていただくときに確実に御説明できるようになると思いますので、そういうことをしていきたいなと思っております。また、説明会の在り方についても、分かりやすくしていきたいなというのが1点ございます。

それと、補足的なところなのですが、清水口つながり協力委員会のバルーン照明のお話がありました。実は、これは市に防災備品としてあるのです。今、会議を一時中座し、危機管理課という市の担当部署と確認してまいりまして、夏祭りなどで利用する場合については、貸出しすることは可能だということで、協議してまいりましたので、これについては御報告させていただきます。

ただ、条件が幾つかあって、当然、災害があったときは優先的に災害に使わせてくださいという話と、バーベキューとか個人的に使わないでねというような話でした。お祭りであれば使用理由としては十分だと思います。

白井市には、防災備品として市民の皆様が使っていただく備品がいくつかありますが、使い方が分からないと、いざというときに使えなくなってしまうので、市としても、使用機会を確保するため、夏祭りだとかそのようなものに貸出しをしていくということについて考えていくということですので、そのあたりは危機管理課とお話をしてください。発電機もございます。この発電機も、ガソリンではなく、カセットコンロのようにガスカセットボンベを使って発電するものが備品としてございます。具体的なお話については、会議が終わった後にお話しできればと思います。

私の話は、余談とはなりましたが、本題として、会議に関して、事務局から、3点、御説明いたしますので、よろしくお願いします。

○事務局

ありがとうございました。それでは、3点ほど連絡事項を説明いたします。

1つ目に今後の委員会予定についてです。第4回委員会では、団体への中間ヒアリングの結果と今年度採択団体の事業見学を実施する予定です。事業見学については調整次第ですが、今のところしろい d e あそ部さんで考えております。

日程については未定ですが、10月、11月のいずれかで開催する予定です。今

後日程調整をさせていただければと思います。

2つ目に、皆様にお支払いする報酬についてです。後日、市に登録されている銀行口座に振り込みますが、本日から1ヶ月を経過しても振り込みが確認できない場合には、お手数ですが、事務局までお問い合わせください。

3つ目に、後日、本会議の会議録を作成しますが、皆様に会議録の校正の依頼をいたしますので、情報公開への御承認とあわせて御協力をお願いいたします。校正が終了次第、皆さんに会議録を送付するとともに市民に公表いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上が事務局からの連絡事項になります。

○委員長

ありがとうございました。

ナイスプレーですね。もちろん要望全部を実現することはどの行政でもできないことですが、市民の皆様からの御意見、御要望を何とか実現していこうということで、熱い事務局さんですので、今日の会議に限らず、何かあればぜひ御相談していただければと思います。

10分延長してしまいましたが、本日の会議は以上とさせていただきます。御参加いただきまして、どうもありがとうございました。

午後3時10分 会議終了